

ナイルの至宝、古代エジプト文明の遺跡を訪ねて③

(2月2日)

5日目は、カイロへで、同行のお二人と合流。
午後は有名なエジプト考古学博物館を見学する。
ここは広い！ 迷子になりそうだ。

1階は王朝別に展示されており、2階は遺物の種類ごとに展示されているので、どこからでも見られる。ツタンカーメンの黄金のマスクは、2階奥にある。現地にお住まいのマリアムさんも一緒に時折合流し案内してもらう。



1階のすぐ入ったところに

「ナルメル王のバレット」がある。
ナルメル王は最初に、上エジプトと下エジプトを統一した第一王初代の王とされている。このバレットからは、これまで見てきた壁画やレリーフ、人物像などがモデルのように凝縮して描かれている。



王はひときわ大きく描かれ、敵の頭をこん棒で打とうとしていて権威の象徴を表わしている。人物は、頭と顔は横向き（ただし、目と眉は正面）、口も横から半分見えるように描かれ、肩は正面、下半身は横から見たように描かれている。また、中段には空想の怪獣が首を交差させており、これは統一を意味すると聞いた。

また、色々な副葬品を見ていると当時の暮らしや生活ぶりも浮かび上がってくる。宝飾品も豊富だ。ウシャブティと呼ばれる呪術的なミイラの形をした小さな像もたくさん見られた。ミイラから取り出した内臓を収めたカノプス壺も展示されていた。

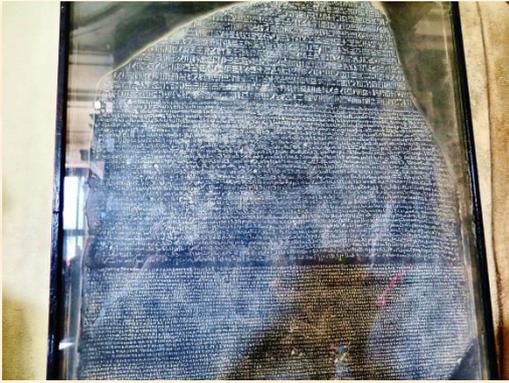


ツタンカーメンのマスクのコーナーは別料金を必要で写真は撮れない。

コーナー外側から撮影はOKだ。まあ、ここは一日いても飽きないくらいだ。

ここではいくつかの展示品を写真とともに紹介したい。

現在、新しい博物館の建設が進められており、今後ツタンカーメンのマスクはその場所に移されるという。老朽化や手狭になったのが理由だそう。



ロゼッタストーン (レプリカ)



書記座像



ラーヘテプとネフェルトの座像



ハトシェプストのオシリス柱頭部



ツタンカーメンの黄金のマスクと王座



ウシャブティと
カノプス壺

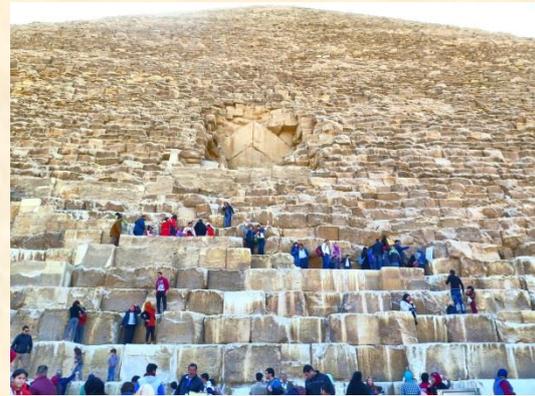


(2月3日)

メナハウスホテルからピラミッドが見える。6日目、今日はピラミッドを巡る。まず、ギザの三大ピラミッドで最大のクフ王ピラミッドの中に入る。長く暗い斜面だ。背中をかがめて歩かなければならない。回廊を通過して最奥部の王の間へ。そこには大きな空間があり石棺が安置されていた。

なんとも不思議な感じがする。

元の回廊に戻り、外へ出た後は、周辺のマスタバの墳墓を見学する。いくつもの墳墓があり、内部には壁画が残っているものも多かった。



次に太陽の船博物館に向かう。大勢の観光客で賑わっていた。

ここは、クフ王の船と考えられている木造船が公開されている。

発見当時は数万のパーツに分かれて

いたそうで、復元するのに10年以上かかったという。

どのように使われたかははっきりとわかっていないらしい。



博物館を後にして、カフラーの河岸神殿、スフィンクスを見学する。そうしているとすでに夕方近くになってしまった。無理を言って馬に乗りピラミッドのパノラマを見に行った。乗馬は初めてで緊張したものの、砂漠から見るピラミッドパノラマは最高だった。夕日に照らし出されたその姿は、威風堂々としていた。

(2月4日)

7日目は、バスでサッカラへ。イムホテプ博物館を見学した後、階段ピラミッドで有名なジョセル王のピラミッド、崩れかけたウナス王のピラミッドを見学する。ウナス王のピラミッド内部はピラミッドテキストと呼ばれるヒエログリフが内壁一面に描かれていた。以前は未公開だったという。またマスタバ墓もあり、聖牛アビスのために造られたセラペウムもあった。巨大な地下回廊と雄牛のための石棺にびっくり。雄牛のミイラが収められているという。



ダハシュールでは、屈折ピラミッドと赤のピラミッドを見学。屈折ピラミッドはちょうど中央から上部の角度が変わっている。石を積み上げていく過程で、角度が急勾配のため、石の重量を支え切れなくなったためと考えられている。赤のピラミッドは赤い石が使われているためだというのが、あまり赤い印象はない。断面が二等辺三角形の真正ピラミッドとしては最古のものだ。

入口までが急な石道を上る。内部は深く、玄室には階段状のピラミッド空間があった。

ここまで来ると何かアンモニアのような刺激臭があったが、コウモリの糞らしいとガイドに教えてもらった。マスクが必携だ。

メンフィス博物館にも寄り、巨大なラメセス2世像にその偉大さを実感した。ああ、今日も充実した一日だった。ホテルに帰るとマリアムさんが、自家製手巻きずしをご馳走してくれた。とても美味しかった。ありがとう！！ 感謝！

(2月5日)

8日目、そろそろどこへ行ったのか混乱してきた。写真とスケジュール表で確認する。そうだ、アレクサンドリアに行った。

バスで3時間以上かかった。カタコンベのお墓、アレクサンドリア国立博物館、ポンペイの柱、アレクサンドリア図書館を見学した。カタコンベは古代からの墓場で、井戸のような入口から階段で降りていく。小さな部屋がいくつもあり、貴族階級の墓だったようだ。

アレクサンドリア博物館には、時代ごとの展示品があり海底からの発掘物もあった。



その後見たポンペイの柱は、古代ローマ皇帝ディオクレティアヌスが建てた図書館の柱の唯一残っているものだ。

イタリアのポンペイとは何の関係もない。かつて400本程度はあったと言われている。

夕方には、カーイトゥバーイの要塞の前を通った。もともとはここにプトレマイオス2世が建てたファロスの灯台があったという。

